

### 事務事業評価表

評価対象年度	平成 15 年度						
事務事業名	交通指導員配置事業			事務事業コード			
担当部課係等	総務部総務課交通防犯防災係			<input type="checkbox"/> 総合計画実施計画対象事業			
総合計画体系				法令根拠			
予算科目	会計	款	項			目	事業
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度		
			↳ ( 開始年度 45 年度 ~ )		↳ ( 年度 ~ 年度 )		
事業概要				全体計画 (単位:千円)			
交通指導員配置事業は、児童生徒の通学時の交通安全指導と交通事故防止を図ることを目的として昭和45年に配置された。 現在30名 市内小中学校の通学路の内事故等の危険がある横断歩道等に配置、危険度の高い場所また学校からの要望により配置する。 指導日時 月～金 午前7時頃から8時頃まで(子供の通学時間帯) 長期休暇期間は指導なし 報酬 52,000円/月 特別報償 1.5ヵ月分(6月12月) 通勤費(ガソリン代助成) 退職時報償金 5年以上5万 10年以上15万 被服費与 健康診断実施 交通指導員連絡協議会 補助金270,000円 市の行事(井頭マラソン、夏祭り)等の際の交通整理等にも協力している				投入量	事業費	国庫支出金	
					財源内訳	県支出金	
						地方債	
						その他	
						一般財源	
						事業費計(A)	0
人件費	正規職員						
	正規職員以外						
	人件費計(B)	0					
	トータルコスト(A)+(B)	0					

(1) 事務事業の目的と効果	
① 手段(具体的な事務事業のやり方、手順、詳細) 15年度実績 市内30箇所の指導個所での立哨指導実施 指導日時 月～金 午前7時頃から8時頃まで(子供の通学時間帯) 長期休暇期間は指導なし 16年度計画 15年度と同様	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない ⇒ 交通指導員の指導日数
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 市内小中学校の児童生徒	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない ⇒ 市内小中学校の児童生徒数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 児童生徒の登校時の交通安全の確保 児童の交通安全意識の高揚	⑦ 成果指標(対象における意図された対象の程度)数字は記入しない ⇒ 交通事故にあった児童生徒の数/市内の児童生徒数 (交通安全のルールを身につけた児童生徒の数/市内の児童生徒数)
④ 結果(どんな結果に結び付けるのか) 安心して通行できる	⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない ⇒ 交通事故にあった児童・生徒、高齢者、地域住民数/全体 安心して通行できると思う地域住民の数/地域住民の数

(2) 総事業費・指標等の推移		(単位:千円)						
		12年度 (実績)	13年度 (実績)	14年度 (実績)	15年度 (実績)	16年度 (見込)	17年度 (目標・計画)	18年度 (目標・計画)
投入量	事業費							
	財源内訳							
	一般財源	20,177	22,609	22,367	22,181	22,278	22,253	
	事業費計(A)	20,177	22,609	22,367	22,181	22,278	22,253	0
	人件費	0	0	0	0	0	0	0
	トータルコスト(A)+(B)	20,177	22,609	22,367	22,181	22,278	22,253	0
活動指標	指導員数	27	30	30	30	30	30	
対象指標	児童生徒数	6,369	6,212	5,972	5,906	5,804		
成果指標	事故に合った児童生徒の割合		29/6,212 0.46%	38/5,972 0.64%	28/5,906 0.47%			
上位成果指標								

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？  
 昭和40年代の交通事故の増加により、児童の通学の安全の確保のために昭和45年に指導員を配置した。  
 当初10名で発足

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期と比べてどう変わったのか？  
 学校の増加、道路等の開通により新たな危険箇所(交差点の増加、自動車の増加)などのため、配置個所の要望があり現在の状況となった。  
 一部の指導員の高齢化が見られ、平成15年度から定年制(70歳)を導入した。

③ この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられていますか？  
 学校関係者から 配置場所を増やしてほしいとの要望がある  
 高齢者の指導員に対し、親から健康上の不安等が寄せられている

2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？  意図することが上位施策に結びついていますか？	<input type="checkbox"/> 結びつかない ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)へ <input checked="" type="checkbox"/> 結びつく ⇒【理由】⇒	児童の交通安全の確保は、安全な(明るく)住みよい街づくりに不可欠のものであり市の政策体系と結びつく
	② 公共関与の妥当性  なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して、達成する目的ですか？	<input type="checkbox"/> 手が引ける ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)へ <input checked="" type="checkbox"/> 手が引けない ⇒【理由】⇒	市民の交通安全の確保は市の責務であり、指導員による児童の交通安全の確保は必要なことである
	③ 対象・意図の拡大又は縮小余地  事業の対象・意図は適切か？ 拡大・縮小の余地はあるか？	<input type="checkbox"/> 余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)へ <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】⇒	対象者は児童生徒であり、また指導員は全小学校に配置しているため事業は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地  成果を向上させる余地はあるか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 余地がある ⇒【原因】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)へ <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない ⇒【理由】⇒	登校時の事故は少ない この水準を維持するために継続する必要がある
	⑤ 廃止・休止の成果への影響  事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無と有の場合の問題解決策	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)へ <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【具体的な影響】⇒ 【問題解決策】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)へ	廃止の場合児童生徒の登校時の安全確保のため、教師又は保護者による立哨指導が必要となり、保護者と学校の負担が増加する
	⑥ 類似事業との統廃合余地  目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？ 類似事業との統廃合余地はないか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) <input type="checkbox"/> 上記他に手段等の統廃合が可能 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)へ <input type="checkbox"/> 上記他に手段はあるが統廃合できない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地  成果を下げずに事業費を削減できないか？(工法の適正化など)事業費を削減した場合の影響の有無と、問題解決策	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)へ <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【具体的な影響】⇒ 【問題解決策】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)へ	指導員報酬の額が 県内でも高額となっている。
	⑧ 人件費の削減余地  成果を下げずに所要時間を削減できないか？成果を下げずにより低賃金の担当者で遂行できないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 可能 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)へ <input type="checkbox"/> 不可能 ⇒【理由】⇒	
公平性 評価	⑨ 受益者負担の適正余地  受益者負担と一般財源が公平・公正な配分になっているか？	<input type="checkbox"/> 公平・公正な負担率ではない。⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)へ <input type="checkbox"/> 公平・公正な負担率である。 ⇒【理由】⇒	

3 改革・改善方向の部

(1)改革の方向性(改革案・実行計画)

廃止 見直し( 目的妥当性 効率性 有効性 公平性) 統合 継続

①児童の通学状況等の変化により指導員の配置箇所が適正かどうか、見直しする必要がある  
毎年年度開始前に学校と通学路や危険箇所等を協議し 立哨箇所の見直しをする

②指導員報酬額の見直し=12市の中で2番の高さであり報酬の見直しをする。

(3)改革・改善による期待成果

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持	①	○	×
	低下		×	×

(2)改革, 改善を実現する上で克服すべき課題は何ですか?それをどう克服していきますか?

4 事務事業の2次評価結果

(1)1次評価結果の客観性と出来具合

記述説明不足(説明責任不十分) 評価内容が客観性を欠く 評価内容は客観的と言える

(2)2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 適切 見直し余地あり
- ② 有効性 適切 見直し余地あり
- ③ 効率性 適切 見直し余地あり
- ④ 公平性 適切 見直し余地あり

(3)評価結果に至る経緯や申し送り事項  
・目的自体は適切。実際には1時間きちっとしていない場合がある。また報酬自体の見直しは必要である。減額と言うよりは他市と同水準にする。

(4)2次評価者として判断した今後の事業の方向性

廃止 休止 目的絞込み 目的拡充 事業統廃合 事業のやり方改善  
予算削減 予算増大 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5)その他2次評価会議で指摘された事項

・報酬は佐野市について県内2番目。  
80歳の方もいる。保護者から見ても「高齢者で大丈夫か?」との受け止め方もある。  
定年制についても検討してきた。しかし「自分は80歳まではやれる」という反対の声も出てきた。  
市政功労者になることの意義もあった。抵抗は大きかったが2年後は70歳。  
・常に交通量が変わる。報酬についてはどのように見直すか?

(6)改革・改善による期待成果

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上	○		
	維持			×
	低下		×	×

5 最終意思決定結果

(1)改革の方向性(改革案・実行計画)

廃止 休止 目的絞込み 目的拡充 事業統廃合 事業のやり方改善  
予算削減 予算増大 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(2)改革, 改善を実現する上で克服すべき課題は何ですか?それをどう克服していきますか?